

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市郡山老人福祉センター
2	指定管理者	社会福祉法人仙台市社会福祉協議会
3	指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 平成29年度 28,823人（前年度比102.2%） 平成28年度 28,211人（前年度比96.8%） 平成27年度 29,146人（前年度比93.1%）
		《事業》 元気サポートクラブの機械操作補助ボランティア（年37回、延べ111人）、老人福祉センター環境美化活動（除草）（年5回 延べ28人）、ヨガ教室（年20回、延べ265人）、太極拳教室（年20回、延べ204人）、編み物教室（年20回、延べ309人）、絵手紙教室（年10回、延べ126人）、歴史散策（年3回延べ36人）、歴史カフェ1回、パソコン活用塾（3回3人）、映画鑑賞会（年16回延べ207人）、コーヒーの入れ方教室（年7回延べ69人）、カラオケ大会（年1回延べ50人）、シャンソンコンサート（年1回延べ58人）、節分祭（年1回）、わいわい演芸まつり（年1回）、行政書士無料相談会（年7回延べ20人）、税理士無料相談会（年6回延べ10人）、シニアボランティア育成講座3回シリーズ14人参加、認知症予防、郡山カフェ（年5回延べ60人）、頭の健康教室（年40回延べ600人）、元気サポート（筋トレ）クラブ（年70回、延べ700人）、嘱託医による衛生講話（年4回延べ71人）
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 44,088千円 (45,134千円) ・ その他市が負担した費用 6,088千円 (1,276千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
		( )は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート又は利用者会議等の方法により利用者の声を把握している。また、意見箱の設置、窓口アンケート、運営委員会、第三者委員会による苦情解決相談窓口の開設を行い対応している。その他、利用者から職員へ直接要望等を聞く場面も多くあった。

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	老人福祉センターの設置目的を踏まえた基本方針に基づき施設運営がなされており、職員も設置目的を適切に理解している。 また、利用者の健康づくりや、公平・公正な利用、高齢者の特性を理解したうえでの心身への配慮に努めるなど、利用者本位の施設運営を行っている。	S
II	施設の運営管理体制	必要数の職員が配置されており、各職員は他の職員の業務状況を把握している。経理処理も書類作成など適正に行われている。 また、個人情報の漏洩や滅失を防止するため、管理責任者を定めるとともに職員への周知等、意識啓発も行うなど、個人情報保護に対する体制を整えている。 併設の児童館やコミュニティセンターと合同で避難訓練や防災訓練を実施しているほか、福祉避難所訓練や地域防災訓練に参加するなど、事故や災害の発生に備えている。 また、連絡体制や職員の役割分担を予め決めているなど、対応体制を構築している。	S
III	施設・設備の維持管理	利用者の安全・安心・快適な利用を維持するため、施設内外の清掃を適切に行い、事故防止のための館内巡回も行われている。 また、ポスターの掲示や呼びかけを行い、節電やごみ発生の抑制、グリーン購入を実施するなど、環境に配慮した施設運営を行っている。	S
IV	サービスの質の向上	利用者が気持ちよく利用できるよう、丁寧な対応と分かりやすい説明を心がけている。 また、毎月のセンターだより発行など、広報紙の配布先を増やすなど利用者への情報提供や施設のPRも積極的に行っている。 さらに、利用者の意見や苦情に対し、その対応手順や担当者を明確にするとともに、利用者アンケートを年1回実施してニーズを把握するなど、利用者の意見を反映した施設運営に努めている。	S
V	施設固有の基準	高齢者が自ら学んだことを発表する機会の設定を積極的に行なっており、利用者の主体的な企画実施に対する支援も行っている。 また、利用者の代表者で構成する委員会を立ち上げ、利用者が施設運営に関わる仕組みづくりに努め、利用者の意見を取り入れた企画の立案を行っている。	S

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

### 四 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人仙台市社会福祉協議会）による自己評価》	
<p>センターの運営にあたっては、公の施設である老人福祉センターに共通する管理運営方針に加え、本会の活動基本理念である「一人ひとりの市民が、その人らしく地域で安心していきいきと暮らせる福祉のまちづくり」の考えに沿いながら事業を実施した。</p> <p>当センターにおいては、老人福祉センター主催の介護予防の「元気サポートクラブ」は、併設デイサービスセンターの作業療法士等と協働で行うなど、専門職の協力を得て運営した。そして、高齢者の生活相談機能の強化を図るため、老人福祉センターに併設のデイサービスセンター、地域包括支援センターと情報共有を図る等連携した運営を行った。</p> <p>センター利用者代表で構成された運営委員会での意見や窓口アンケートに寄せられた意見等について利用者の立場に立った視点で検討し、利用者目線でのセンター運営改善に努めた。</p> <p>また、老人福祉センターの講座や自主グループの運営については、高いスキルや特技などをお持ちの利用者に活躍してもらう「利用者主体」の運営の促進に努めた。</p> <p>さらに、東日本大震災時に福祉避難所を開設した経験を活かし、次の大規模災害に備えた福祉避難所開設訓練を行った。</p> <p>そして、毎月発行のセンターだよりを概ね郡山中学校区内の自治会に配付したり、市民センター等の公共施設に置いていただいたり広報活動の強化に努める一方、複合施設のメリットを活かし、併設の児童館との世代間交流事業を開催した。</p>	
《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成29年度の管理運営について、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。</p> <p>デイサービスセンター、地域包括支援センターをはじめとする、関係機関と連携した事業の実施を行っている。また、浴室入口前に健康相談コーナーを設置し、入浴前の健康確認や、健康相談が気軽に実施できるよう工夫を凝らしている。また、各種の教室などでは利用者が自らの特技を生かし、趣味の教室の講師を務めるなど利用者主体の運営にも努めている。</p> <p>シニアボランティア育成講座の開講や、併設する児童館の草刈りなどボランティア育成にも取り組んでいる。</p> <p>このほか、併設の児童館との交流事業の開催により、地域の子供たちと世代間交流を図っているほか、地域委員会を開催し、町内会や老人クラブ等と連携し、地域ニーズの把握に努め、センター運営に反映させるよう取り組んでいるなど、総合的に高く評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局保険高齢部高齢企画課